

重点的に取り組んだ活動・内容

項 目	実 践 状 況
<p>1 実践1 【性的マイノリティについて】 (6年道徳)</p>	<p>茨城県教育委員会から配信された動画教材を活用し、6学年を対象に授業を行った。当事者の方の話であったこと、わかりやすい内容だったことから、児童が性的マイノリティについて考えるよいきっかけとなった。</p> <p>成果 児童からは、「いろいろな性のあり方がわかった」「中学生の制服で女子でもズボンをはいている人がいた。少しずつジェンダーレスな社会になっているのではないか」などの感想があげられた。また、「社会の中には様々な人がいて、それぞれ大切にされるべき存在である」との意見をもった児童もおり、性的マイノリティだけでなく、個性の尊重や多様性の容認などについても考えるよいきっかけとなった。</p> <p>課題 授業として取り扱うのは、高学年のみでもよいかと思うが、すべての児童が知るべき内容であるため、中・低学年に向けても学級活動や日々の生活の中で周知していく必要がある。</p>
<p>2 実践2 【いじめゼロ月間】</p>	<p>11月に運営委員会の児童を中心に「いじめゼロ月間」として「いじめゼロ宣言」の掲示物を作成したり、全校集会を行い校長や運営委員の代表児童からいじめについての話を聞いたりした。</p> <p>成果 「いじめゼロ宣言」では、児童一人一人が日々の自分の言動を振り返り、いじめをなくすためにできることを考えて学級で話し合い活動を行った。さらに、その話し合いを基に作成した掲示物を普段から目にする場所に掲示することで、より意識して行動する様子が見られた。</p> <p>課題 「いじめゼロ月間」だけでなく、定期的に自分の言動を振り返ったり、道徳や学活などで自他を認められるような学習を行ったりすることで、継続していじめをなくす取り組みを行う必要がある。また、保護者や地域の方への理解を促したり、生徒指導部とも連携したりすることで、学校全体として取り組めるようにしていきたい。</p>